

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642	単位	2
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	D 1年～3年		
時間割	集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	総括
第14回	2学期の目標設定
第15回	論文指導
第16回	論文指導
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	総括

授業方法

指導は状況に応じて対面あるいは遠隔(Zoom)で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	100%	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641	単位	2
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Master's Thesis				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年		
時間割	集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	総括
第14回	第2学期の目標設定
第15回	論文指導
第16回	論文指導
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	総括

授業方法

状況に応じて対面あるいは遠隔(Zoom)で指導する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	100%	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611	単位	2
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)				
英文科目名	Studies in the German Language				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西1-212				

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback; persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト (<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>) より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611	単位	2
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2) (学部:言語・情報コース 専門演習) (大学院)				
英文科目名	Studies in the German Language				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-212				

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第8回	Gewissensfragen
第9回	Globalisierung I
第10回	Globalisierung II
第11回	Crowdfunding I
第12回	Crowdfunding II
第13回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト (<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>) より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611	単位	2
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)				
副題	中世ドイツ語学・文学入門				
英文科目名	Studies in the German Language				
担当者名	平井 敏雄				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-306				

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。この授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語文法
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611	単位	2
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)				
副題	中世ドイツ語学・文学入門				
英文科目名	Studies in the German Language				
担当者名	平井 敏雄				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-306				

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第4回	続き
第5回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第6回	続き
第7回	中世ドイツ文学の詩人たち
第8回	小発表1
第9回	小発表2
第10回	『ニーベルンゲンの歌』講読
第11回	続き
第12回	続き
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622	単位	2
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1) (学部:文学・文化コース 専門演習) (大学院)				
副題	Fontanes Roman Effi Briest				
英文科目名	Studies in German Literature				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 火曜日 3時限 北1-405				

授業概要

Theodor Fontanes Roman vom Ende des 19. Jahrhunderts über ein junges Mädchen, Effi Briest, die in eine unglückliche Ehe gezwungen wird, einen Geliebten findet und deshalb von ihrem Mann und ihrer Familie verstoßen wird, gilt als Höhepunkt des realistischen Romans. Man erfährt in diesem Roman nicht nur viel über Effis unglückliches Leben, sondern auch über die deutsche Gesellschaft der damaligen Zeit. Fontane gehört zu den Klassikern der deutschen Literatur, der in seinen Roman schon Formen des modernen Erzählens andeutet.

到達目標

Die Studierenden lernen eine wichtige Epoche der deutschen Literaturgeschichte (Realismus) anhand eines beispielhaften Vertreters dieser Zeit kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreiches Werkes herangeführt, welches in Auszügen gelesen wird. Sie erfahren weiter Grundlegendes über die Gründerzeit in Deutschland und erarbeiten sich ein erstes Verständnis von dem, was unter modernem Erzählen verstanden wird.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Fontane und seine Zeit
第2回	Kapitel 1: Das Matrosenkleid
第3回	Fortsetzung Kapitel 1
第4回	Kapitel 2: Einkaufen in Berlin
第5回	Fortsetzung Kapitel 2
第6回	Kapitel 3: Auf Hochzeitsreise
第7回	Fortsetzung Kapitel 3
第8回	Kapitel 4: Fahrt nach Kessin
第9回	Fortsetzung Kapitel 4
第10回	Kapitel 5: Effis neues Domizil
第11回	Fortsetzung Kapitel 5
第12回	Kapitel 6: Der erste Morgen
第13回	Fortsetzung Kapitel 6; Abschlussdiskussion

授業方法

Hören des Textes; gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussion, Einzelvorträge (Referate)

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause; Vorbereitung der Seminarpräsentation

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen.

Studierende im Masterstudiengang und Studierende im Doktoratsstudiengang werden nach unterschiedlichen Kriterien bewertet.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622	単位	2
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部:文学・文化コース 専門演習) (大学院)				
副題	Fontanes Roman Effi Briest				
英文科目名	Studies in German Literature				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 火曜日 3時限 北1-405				

授業概要

Theodor Fontanes Roman vom Ende des 19. Jahrhunderts über ein junges Mädchen, Effi Briest, die in eine unglückliche Ehe gezwungen wird, einen Geliebten findet und deshalb von ihrem Mann und ihrer Familie verstoßen wird, gilt als Höhepunkt des realistischen Romans. Man erfährt in diesem Roman nicht nur viel über Effis unglückliches Leben, sondern auch über die deutsche Gesellschaft der damaligen Zeit. Fontane gehört zu den Klassikern der deutschen Literatur, der in seinen Roman schon Formen des modernen Erzählens andeutet.

到達目標

Die Studierenden lernen eine wichtige Epoche der deutschen Literaturgeschichte (Realismus) anhand eines beispielhaften Vertreters dieser Zeit kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreiches Werkes herangeführt, welches in Auszügen gelesen wird. Sie erfahren weiter Grundlegendes über die Gründerzeit in Deutschland und erarbeiten sich ein erstes Verständnis von dem, was unter modernem Erzählen verstanden wird.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung; Kapitel 7: Führung durch das Haus
第2回	Fortsetzung Kapitel 7
第3回	Kapitel 8: Besuch von Gieshübler
第4回	Fortsetzung Kapitel 8
第5回	Kapitel 9: Einführung in die Gesellschaft
第6回	Fortsetzung Kapitel 9
第7回	Kapitel 10: Ein Abend allein
第8回	Fortsetzung Kapitel 10
第9回	Kapitel 11: Schlittenfahrt
第10回	Fortsetzung Kapitel 11
第11回	Kapitel 12: Brief an die Mutter
第12回	Fortsetzung Kapitel 12
第13回	Zusammenfassung des restlichen Romans; Abschlussdiskussion

授業方法

Hören des Textes; gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussion, Einzelvorträge (Referate)

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause; Vorbereitung der Seminarpräsentation

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen.
Studierende im Masterstudiengang und Studierende im Doktoratsstudiengang werden nach unterschiedlichen Kriterien bewertet.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613	単位	2
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)				
副題	統語論と意味論のインターフェイス				
英文科目名	Seminar in German Language				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西1-109				

授業概要

統語構造が文の意味解釈に関わることはよく知られている。

たとえば、

- (1)
a. Everyone loves someone.
b. Someone is loved by everyone.
において、数量詞 every, some の順序の違いが文の意味解釈の違いを生み出している。

別の例:

- (2)
a. Our store sells alligator shoes.
b. Our store sells horse shoes.
においては、(2a) は「ワニ皮」の靴、(2b) は「馬が履く」ための靴が売られている、という違いが表されているが、この (2a) と (2b) の意味の違いは、どのように構造的に表され、説明できるだろうか。(そもそも説明できるのだろうか。)

この授業では、Lohndal (2014) を精読しながら、統語論と意味論のインターフェイスについて議論し、理解を深めていく。

到達目標

- ・句構造、項構造、述語論理、作用域等について、基本的理解を深めることができる。
- ・学んだ知識を実際の言語データの解釈や分析に応用することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;句構造・項構造
第2回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (1)
第3回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (2)
第4回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (3)
第5回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (4)
第6回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (5)
第7回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (6)
第8回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (7)
第9回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (8)
第10回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (9)
第11回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (10)
第12回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (11)
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は Moodle を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者は文献の指定された担当箇所をまとめ、配布物を用意することが求められます(約3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		

小テスト

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、統語論、意味論、そのインターフェースについて独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート課題は Moodle によりフィードバックする。

教科書

Phrase Structure and Argument Structure: A Case Study of the Syntax-Semantics Interface: Oxford Studies in Theoretical Linguistics, Terje Lohndal, Oxford University Press, 2014, 978-019-967712-2

参考文献コメント

必要に応じて授業中に紹介する。

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613	単位	2
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)				
副題	統語論と意味論のインターフェイス				
英文科目名	Seminar in German Language				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西1-109				

授業概要

1学期に引き続いて、Lohndal (2014) を精読しながら、統語論と意味論のインターフェイスについて議論し、理解を深めていく。授業概要は「ドイツ語学演習(1)」を参照。

到達目標

- ・句構造、項構造、述語論理、作用域等について、基本的理解を深めることができる。
- ・学んだ知識を実際の言語データの解釈や分析に応用することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;句構造・項構造
第2回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (1)
第3回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (2)
第4回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (3)
第5回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (4)
第6回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (5)
第7回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (6)
第8回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (7)
第9回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (8)
第10回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (9)
第11回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (10)
第12回	Lohndal: Phrase Structure and Argument Structure 講読と議論 (11)
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は Moodle を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者は文献の指定された担当箇所をまとめ、配布物を用意することが求められます(約3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、統語論、意味論、そのインターフェイスについて独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート課題は Moodle によりフィードバックする。

教科書

Phrase Structure and Argument Structure: A Case Study of the Syntax-Semantics Interface: Oxford Studies in Theoretical

参考文献コメント

必要に応じて授業中に紹介する。

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613	単位	2
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)				
副題	ドイツ語構文文法(1)				
英文科目名	Seminar in German Language				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 月曜日 2時限 独文院生室				

授業概要

構成文法とは、言語構造の分析と記述を行う際に、構文を言語の基本的な構成要素とみなすアプローチで、特に、形式と意味の有機的な結合と言語使用の実態を重要視する。Lakoff, Langacker, Goldbergらによって進められているこのアプローチをドイツ語の構文にどう応用するかを考えていく。教科書として、Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik, de Gruyter, 2013の第3部7章以降を講読し、毎回議論していく。なお、この本の第2版が出版されたら、その版に切り替える。

到達目標

- ・構文文法について、総合的に俯瞰して、その性質を述べることができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;構文文法とは何か。
第2回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (1)
第3回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (2)
第4回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (3)
第5回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (4)
第6回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (5)
第7回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (6)
第8回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (7)
第9回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (8)
第10回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (9)
第11回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (10)
第12回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (11)
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

対面授業による演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、構文文法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (Moodle)によりフィードバックする。

教科書

Konstruktionsgrammatik,A.Ziem, A. Lasch,De Gruyter,2013,978-3-11-02794-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。この本の第2版が出版されたら、その版に切り替える。

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613	単位	2
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)				
副題	ドイツ語構文文法(2)				
英文科目名	Seminar in German Language				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 月曜日 2時限 独文院生室				

授業概要

構文文法とは、言語構造の分析と記述を行う際に、構文を言語の基本的な構成要素とみなすアプローチで、特に、形式と意味の有機的な結合と言語使用の実態を重要視する。Lakoff, Langacker, Goldbergらによって進められているこのアプローチをドイツ語の構文にどう応用するかを考えていく。第一学期に引き続き、教科書として、Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik, de Gruyter, 2013を講読し、毎回議論していく。なお、この本の第2版が出版されたら、その版に切り替える。

到達目標

- ・構文文法について、総合的に俯瞰して、その性質を述べることができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;第1学期の復習
第2回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (1)
第3回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (2)
第4回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (3)
第5回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (4)
第6回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (5)
第7回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (6)
第8回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (7)
第9回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (8)
第10回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (9)
第11回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (10)
第12回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論 (11)
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

対面授業による演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、構文文法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (Moodle)によりフィードバックする。

教科書

Konstruktionsgrammatik,A.Ziem, A. Lasch,De Gruyter,2013,978-3-11-02794-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。この本の第2版が出版されたら、その版に切り替える。

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(1)(大学院)				
副題	日本を描く現代ドイツ文学				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 木曜日 5時限 個人研究室				

授業概要

グローバル社会において誰もが気軽に世界中を飛び回ることができる現在、日本はヨーロッパから見ても必ずしもエキゾチックな国ではなくなりました。にもかかわらず、現代日本は、特に東日本大震災後、それまで日本に特段の関心を示して来なかった作家によっても描かれており、しかもそこに描かれた世界は、日本に生まれ育った人の目から見ると、自分が知っている日本とは異なるパラレルワールドとして立ち現れるように思われます。東日本大震災後の作品を中心に、現代日本を描く現代ドイツ文学を読解し、異文化の表象のあり方を議論します。

到達目標

日本を描いた現代ドイツ文学および異文化表象の理論についての知識を得、理解を深めること。
研究に必要な方法や倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本を描いた20世紀までのドイツ文学
第3回	『ぼくとネクタイさん』読解
第4回	書評を読む
第5回	アドルフ・ムシュク『福島への帰郷』読解
第6回	ムシュク論を読む
第7回	マリオン・ボッシュマン『松島』読解(1)
第8回	マリオン・ボッシュマン『松島』読解(2)
第9回	ボッシュマン論を読む
第10回	イエリネク『光のない』読解(1)
第11回	イエリネク『光のない』読解(2)
第12回	イエリネク論を読む①
第13回	イエリネク論を読む②

授業方法

演習形式で進めます。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(2)(大学院)				
副題	ナチス時代を描く現代ドイツ文学作品:ダニエル・ケールマンを例に				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 木曜日 5時限 個人研究室				

授業概要

ナチス時代をテーマとしたドイツ文学作品は、第二次世界大戦終戦から80年がたつ現在も、次々と書かれています。この授業では、ダニエル・ケールマンの2023年のベストセラー長篇小説“Das Lichtspiel”を精読しつつ、そのケールマン論や作品の書評を読んで作品及びこの作家への理解を深めます。

到達目標

ナチス時代を描く現代ドイツ文学について一定の理解を得ること。
論文等を書く上での研究方法・倫理を習得すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Das Lichtspiel精読①+ケールマン論
第3回	Das Lichtspiel精読②+ケールマンの他作品『僕とカミンスキー』①
第4回	Das Lichtspiel精読③+ケールマンの他作品『僕とカミンスキー』②
第5回	Das Lichtspiel精読④+ケールマンの他作品『世界の測量』①
第6回	Das Lichtspiel精読⑤+ケールマンの他作品『世界の測量』②
第7回	Das Lichtspiel精読⑥+ケールマン論を読む①
第8回	Das Lichtspiel精読⑦+ケールマン論を読む②
第9回	Das Lichtspiel精読⑧+書評を読む①
第10回	Das Lichtspiel精読⑨+書評を読む②
第11回	Das Lichtspiel精読⑩+書評を読む③
第12回	Das Lichtspiel精読⑪+書評を読む④
第13回	Das Lichtspiel精読⑫+書評を読む⑤

授業方法

ディスカッションを中心に行います。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語の担当箇所を翻訳してきていただきます。また、日本語訳の担当箇所を要約し、それについて自分の考えをまとめてきていただきます(3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中でコメントします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業内で指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)				
副題	ベッティナー・フォン・アルニムの世界				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 金曜日 1時限 西1-211				

授業概要

19世紀前半のドイツで花開いたロマン主義文学というと、真っ先に思いつくのは男性作家が多いのではないのでしょうか。この授業では、ドイツ・ロマン主義文学の中で異彩を放つ女性作家ベッティナー・フォン・アルニムに注目します。まず、彼女のメルヒエンを読み、その後、受講者の関心に合わせて、他の作品も読んでみます。

到達目標

- ・ベッティナー・フォン・アルニムの作品を原語で読む。
- ・作品を手掛かりに、19世紀前半のドイツ・ロマン主義について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	総括

授業方法

対面で、演習形式で行います。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	課題(テキストの精確な訳読)

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)				
副題	ベッティナー・フォン・アルニムの世界				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 金曜日 1時限 西1-211				

授業概要

19世紀前半のドイツで花開いたロマン主義文学というと、真っ先に思いつくのは男性作家が多いのではないのでしょうか。この授業では、ドイツ・ロマン主義文学の中で異彩を放つ女性作家ベッティナー・フォン・アルニムに注目します。受講者の関心に合わせて作品を読んでいきます。

到達目標

- ・ベッティナー・フォン・アルニムの作品を原語で読む。
- ・作品を手掛かりに、19世紀前半のドイツ・ロマン主義について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	総括

授業方法

対面で、演習形式で行います。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	課題(テキストの精確な訳読)

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)				
副題	ヴァイマル共和国時代の小説を読む				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 火曜日 1時限 南1-306				

授業概要

ヴァイマル共和国時代にはMädchenを主人公とした数々の文学作品が書かれています。本授業ではマリールイーゼ・フライサーの作品を取り上げ精読し、フライサー作品におけるMädchen像について考えていきます。

到達目標

ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(6)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

大学院生の研究テーマによっては取り上げるテキストが変更する可能性があります。授業では精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(課題も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	毎回課題を出します。

成績評価コメント

授業への出席態度及び課題提出、特に積極性を重視します。学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

著作権を遵守した上で、コピーで配布します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

- ・大学院生の研究テーマによっては、講読テキストが変更する可能性もあります。履修を希望する学生は、初回の授業に必ず出席してください。
- ・欠席する場合には、事前に連絡をしてください。

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)				
副題	「モノ」に関するエッセイを読む				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 火曜日 1時限 南1-306				

授業概要

さまざまな「モノ」の歴史について、ジェンダーの視点から考察したエッセイを読みます。

到達目標

日常的になじみの「モノ」について、ジェンダーの視点からとらえ直すことによって、これまでとは異なる見方を習得し、それを敷衍して思考する力をつけることを目指します。
なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(5)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

大学院生の研究テーマによっては取り上げるテキストが変更する可能性があります。授業では精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	毎回課題を出します。

成績評価コメント

授業への出席態度および課題提出、特に積極性を重視します。
学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

著作権を遵守した上で、コピーで配布します。

参考文献コメント

授業中に指示をします。

履修上の注意

- ・大学院生の研究テーマによっては扱うテキストが変更する場合もあるので、初回の授業には必ず出席してください。
- ・欠席する場合は、事前に連絡をしてください。

講義コード	M350301207	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(7)(大学院)				
副題	人工言語を考える(1)				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第1学期 月曜日 1時限 個人研究室				

授業概要

言語とはなんだろう、と考えたことはありますか？ 物心ついたころから使っている言語に便利さや不自由さを感じたことはありますか？ 世界にはさまざまな言語がありますが、これらはどういう構造で、共通点や相違点にはどのようなものがあるのでしょうか。もしあなたが自由に言語を作れるとしたら、どんな言語があったらいいと思いますか？

本授業では、既存の言語ではなく、人工言語の使用や開発に踏み切った人々にかんするエッセイ集『ミツバチと不可視のもの』(Clemens J. Setz: Die Bienen und das Unsichtbare, Berlin 2020)を読み、それぞれの人工言語の成り立ちや特徴を学びます。前期はプリズンシンボルとその開発者チャールズ・プリズを中心とした箇所から読み進めます。

到達目標

- ・ドイツ語の長文読解に慣れ、多様な言語で書かれた資料を使って調査研究を行う
- ・人工言語の成り立ちとその特徴について知る
- ・言語の多様性について理解を深める

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:本の概要、作家紹介
第2回	自然言語と人工言語
第3回	クレメンス・J・ゼッツ『ミツバチと不可視のもの』テキスト読解①
第4回	テキスト読解②
第5回	テキスト読解③
第6回	テキスト読解④
第7回	テキスト読解⑤
第8回	テキスト読解⑥
第9回	テキスト読解⑦
第10回	テキスト読解⑧
第11回	テキスト読解⑨
第12回	テキスト読解⑩
第13回	まとめ

授業計画コメント

毎授業で読む言語は基本的にドイツ語です。人工言語の文法や語彙表現を学ぶ語学学習の授業ではありません。

授業方法

対面でのドイツ語の原書講読を基本とし、受講者の関心にあわせて適宜、人工言語に関する資料を紹介します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストの箇所を読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業内で指定されたドイツ語テキストの翻訳や要約を発表していただき、その理解度をレポートとともに評価の対象とします。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけてお返します。

教科書

Die Bienen und das Unsichtbare: Suhrkamp taschenbuch 5256, Clemens J. Setz, Suhrkamp, 2022, 978-3-518-47256-9

参考文献コメント

授業内で適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

出席できない場合には、事前に授業担当者へメールで連絡してください。

講義コード	M350301208	科目ナンバリング	135F624	単位	2
講義名	ドイツ文学演習(8)(大学院)				
副題	人工言語を考える(2)				
英文科目名	Seminar in German Literature				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語ドイツ文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	第2学期 月曜日 1時限 個人研究室				

授業概要

言語とはなんだろう、と考えたことはありますか？ 物心ついたころから使っている言語に便利さや不自由さを感じたことはありますか？ 世界にはさまざまな言語がありますが、これらはどういう構造で、共通点や相違点にはどのようなものがあるのでしょうか。もしあなたが自由に言語を作れるとしたら、どんな言語があったらいいと思いますか？

本授業では、既存の言語ではなく、人工言語の使用や開発に踏み切った人々にかんするエッセイ集『ミツバチと不可視のもの』(Clemens J. Setz: Die Bienen und das Unsichtbare, Berlin 2020)を読み、それぞれの人工言語の成り立ちや特徴を学びます。後期はヴォラピュク語を学ぶ作家の体験談を読みます。

到達目標

- ・ドイツ語の長文読解に慣れ、多様な言語で書かれた資料を使って調査研究を行う
- ・人工言語の成り立ちとその特徴について知る
- ・言語の多様性について理解を深める

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:さまざまな人工言語
第2回	クレメンス・J・ゼッツ『ミツバチと不可視のもの』テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	まとめ

授業計画コメント

毎授業で読む言語は基本的にドイツ語です。人工言語の文法や語彙表現を学ぶ語学学習の授業ではありません。

授業方法

対面でのドイツ語の原書講読を基本とし、受講者の関心にあわせて適宜、人工言語に関する資料を紹介します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストの箇所を読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業内で指定されたドイツ語テキストの翻訳や要約を発表していただき、その理解度をレポートとともに評価の対象とします。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけてお返します。

教科書

Die Bienen und das Unsichtbare: Suhrkamp taschenbuch 5256, Clemens J. Setz, Suhrkamp, 2022, 978-3-518-47256-9

参考文献コメント

授業内で適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

出席できない場合には、事前に授業担当者へメールで連絡してください。